

港南台生き生きプレイパーク 20周年記念プレイイベント 映画上映会



1/26(日)13:30~15:30(13:00より受付)

港南公会堂 (港南中央駅徒歩1分)

参加費無料

お申込みはQRコードから→



保育あり: 1歳半~6歳の未就学児 定員 15名

※保育は申込み必須(1/10×切)

※鑑賞のみの申込みは、当日会場での受付もできます

主催: 港南台生き生きプレイパーク

後援: 横浜市港南区役所

「やってみたい」がいっぱいある。

子どもたちの遊び場「川崎市子ども夢パーク」=通称「ゆめパ」。遊んで、転んで、立ち止まって…誰もが安心して自分らしく過ごせる居場所で育まれる、子どもたちのかけがえのない“じかん”を情感豊かに描いた珠玉のドキュメンタリー。



何をしてもいい。
何もしなくてもいい。
きみは、きみのままでいい。

「ゆめパ」は子どもたちみんなの遊び場。約1万㎡の広大な敷地には、子どもたちの「やってみたい」がたくさん詰まっています。手作りの遊具で思いっきり遊ぶ子どもたち。一緒にどろんこになっている親子。くると踊る子。小さな子どもを連れた自主保育のグループ。ゆめパにはいつも子どもと子どもに関わる大人が集っています。ゆめパの一角には「フリースペースえん」があり、学校に行っていない子どもたちが自分の「好き」をあたためています。安心して、ありのままの自分で過ごせる場所で、虫や鳥を観察したり、木工細工に熱中したり、ゴロゴロ休憩したり。でも、時には学校や勉強のことが気になる子も…。新しい春を前に、一人の子が自身の将来を考え始め……。子どもも大人もみんなが作り手となって生み出される「居場所の力」と、時に悩みながらも、自ら考え歩もうとする「子どもの力」を描き出したドキュメンタリー。



いまを生きるすべての子どもと、
かつて子どもだった大人に贈る、
生きる力を育む大切な“じかん”

2020年度の日本の児童や生徒の自殺者数は初めて400人を超え、小中学生の不登校児はおよそ20万人となりました。社会環境の大きな変化に大人たちが戸惑い、不安を感じている時こそ必要となる”子どもの居場所”。本作の撮影中、2020年3月に新型コロナウイルスの感染拡大により全国の学校が一斉休校となった時もゆめパは子どもたちを受け入れ続けました。家庭でもない、学校でもない、第3の子どもたちの居場所を公設民営で運営している先進的なモデルとして、全国の自治体から注目を集めるゆめパの日々を3年にわたり撮影したのは、前作『さとにきたらええやん』の重江良樹監督。プロデューサーは『さとにたらええやん』『隣人』の大澤一生、音楽とナレーションをあたたかな声が魅力のシンガーソングライター・児玉奈央が務めています。遊ぶこと、学ぶこと、休息すること、人と共にあること。その輝きも揺らぎも、子どもたちのかけがえのない“じかん”はきっと大人たちにも大切なものを思い起こさせてくれることでしょう。

主催団体について

港南台生き生きプレイパーク

「港南台生き生きプレイパーク」は、子どもたちがのびのびと遊べるように、地域住民がボランティアで開催している遊び場です。乳幼児から大人まで、誰でも無料で参加できます。多くの人に支えられて、もうすぐ20周年を迎えようとしています。このプレイパークでは、「自分の責任で自由に遊ぶ」という考えを基本にしています。子どもたちが自分の「やりたい」という思いで色々なことにチャレンジして遊べるように、禁止事項を極力減らし、ロープブランコなどの手作りの遊具で遊んだり、大工道具で工作をしたり、かまどで火を使ったりすることもできるようにしています。子どもたちが自分で「あぶない」と感じながら、自分で考えながら試すことを大切に、冒険心や挑戦心、自由な発想を妨げないようにしたいと考えています。



開催場所 港南台中央公園
開催日時 第1・3の土・日曜日
毎週 火・水・木曜日
10:00~17:00
(12月は16:30まで)

予約・参加費は要りません。いつでも誰でも遊びに来てください！

E-mail: ikiiki.pp@gmail.com

